

令和5年度 KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会 自己点検評価

目的

本委員会の目的は、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AI 教育を全学的に普及させ、1 名でも多くの学生に修得させるとともに、意欲ある学生に対して自らの専門分野への応用力および実践力を修得させることにある。

構成メンバー

荒平 高章 准教授

秋吉 浩志 准教授

宮崎 武 講師

ディンダ プラマンタ 助教

中島 直樹 助教

幸野 憲道 教務課長

取り組み内容

令和5年度の当該委員会の活動は以下の通りである。

- 1) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの啓発活動
- 2) カリキュラム改訂に伴う KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の科目変更手続き
- 3) 令和5年度前期・後期での KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者の認定および修了証授与
- 4) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者に対するアンケートの実施

1)に関しては、令和5年度前期在学生オリエンテーション（2，3，4年生対象）および新生オリエンテーション、令和5年度後期在学生オリエンテーション（1，2，3，4年生対象）において学生に対して周知徹底を行ったほか、履修モデル等を印刷したプリント等を配布した。

2)に関しては、カリキュラム改訂に伴う KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の科目変更手続きを行った。この改訂は、令和5年度入学以降の学生に適用される。

3)に関しては、半期ごとに当該委員会でリテラシーレベル・応用基礎レベル双方の認定に係る判定会議を実施し、修了者の判定および修了証の授与を実施した。

前期については、応用基礎レベル1名、リテラシーレベル26名、後期は応用基礎レベル4名、リテラシーレベル7名が修了認定を受けた。

4)に関しては、修了証を授与する際、Google Formsにて作成された修了者アンケートのQRコードを配布し、リテラシーレベル・応用基礎レベルそれぞれについて回答を求めた。

自己評価

令和5年度は応用基礎レベル5名、リテラシーレベル33名の修了者が出た。これは前年度に比べわずかに減少しているが、次年度は修了者数の増加を目指し、継続的な周知徹底を行う。特に、本学の応用基礎レベルは修了要件に要する科目数が多いため、ハードルは高いが、データサイエンスのエキスパートとして必要な知識・技術の習得に役立つことは間違いない。したがって、今後も引き続き、応用基礎レベルの修了者を増やすために委員メンバーと教務課と連携し、普及活動をしていきたい。

改善・向上方策（将来計画）

前年度の将来計画と同様にリテラシーレベルの全学生修了を目標とし、応用基礎レベルの修得を目指す学生を増やすことが必要である。そのためには、修了者の卒業後の動向などの調査をはじめ、修了者に対する本学教育プログラムに関する調査を継続する。

また、令和6年度の当該委員会の活動計画は以下の通りである。

- 1) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの啓発活動
- 2) 令和5年度前期・後期でのKIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者の認定および修了証授与
- 3) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者に対するアンケートの実施